

甲陽だより

同窓生の哀歎



毎年、ビールや酒のうまくなる月には同窓会の集いが多くなる、といった人がある。なほ、各地方のビヤホールや料亭の入口に「XX学校同窓会御席」の立て札を見かけることが多い。そして歌う唄は、きまってる「同期の桜」である。

ことし学校を出たばかりの紅顔のサラリーマンから、ロマンズスタイルのおじさんに至るまで、学生時代の童心にかえってのはしやきようは、近ごろのようにストレスの多い時代になるほど激しくなるようだ。
真夏は学校や会社の夏休みがはじまり、集まりやすくなるため同窓会が開かれるわけだが、年の暮は、これまた遠く年を借しみつ、何となく入念しくなる時期だからでもあろう正に同窓会はクライマックスに達する。
私は、かねてからの持論どおり同窓会の集まりを商取引の場とすることには大反対だが同じ学校に学び、同じ先生に教わったというだけの縁につなげて、初対面たちまら百年の知己のように仲よく話し合える仲になれるところに、同窓会の大きな魅力がある。

学生時代の同級生と話し合っている間は、インフレ物価も会社経営の苦勞も、しばし忘れて、ただ青春の想出だけが生き生きと、よみがえってくるのである。あのころ高い堤防
だと思っていた校庭の一隅が、意外に低い土堤であったり、あのころコワイ先生だと怖れていた先生が、今は年老いて好々爺になってる姿を見ても安心したり、そして、あのころどちらを向いても広々としたイチゴ畑の真ん中にあつた母校の校舎が、今は電車と自動車の騒音の真つただ中にどろり残されている姿を見て、世代的変転を嘆いたり……。
「空に連なる六甲の、山のみどりを窓にし、松の葉越しに行き通う、帆影も近き茅渚の海……」少くとも、あのころ校歌代りに愛唱した「甲陽行進曲」の歌詞にある、この風景が、今は全く消え去ってしまったことだけは確かで、淋しい。
しかし、もっと悲しいことがある。私の机の上にある「甲陽学院同窓会名簿」である。第一回卒業生（大正十一年三月）の人名簿第八回（昭和四年卒業）のころから急に戦死者の名前の数がふえてくるのである。
第九回生（昭和六年卒業）十四名、第十回生（昭和七年卒業）十七名、第十一回生（昭和八年卒業）十八名、第十二回生（昭和九年卒業）十九名、第十三回生（昭和十年卒業）二十名、第十四回生（昭和十一年卒業）二十名と戦死者の数はピークに上る。これは、もちろん日華事変から第二次世界大戦に至るまでの出征、戦死者の様相を痛ましくも裏づけしている数字である。
しかも、いわゆる住所不明者の数も、この期間中が圧倒的に多く、第十七回生（昭和十三年卒業生）五十名をトップに毎年三十名、四十名となり、敗戦の昭和二十年には、卒業

発行所
西宮市甲子園高野町3番7号
甲陽学院同窓会
電話西宮(0783)40422番0623番
郵便番号 663
編集人 原 清
印刷所
株式会社 紺谷印刷所
大阪市生野区四島3-1-10
電話 大阪(778)2566番

甲陽学院同窓会会長 原 清

生二百二十四名のうち、なんと約半にあたる五十二名の卒業生が行方不明という、悲しい数字になっている。戦争中と終戦直後の混乱の傷痕が、なおおままだと残る同窓会名簿を前にして、暗然とした気持ちになるのは、果して私だけだろうか。

北陸紀行(S48)雑詠

広島支部 堤正孝(第18回)

奥能登路御神事大鼓を秋冷えに
空聞つんざきおどろおどろし
幾千歳扶られし岩殿
荒海に映え秋終る見ゆ(11・8 能登金剛)
墨染の袴めし永平寺
畏れの律法の声聴く静寂(11・9 永平寺)
●積極的の母校訪問を
母校在学中の各種行事は、卒業の後まで懐しい憶出です。創立記念音楽会(五月三日)体育祭(六月十日前後の日曜日)、音楽と展覧の会(大休秋分の日)、卒業式(二月十日)その他いろいろ、学校から別段の案内は致しません。遠慮なく訪問して、母校の現況後輩諸君の活躍等を御覧下さい。

原稿募集

今回は割と多く便りを頂戴しましたが、紙面に入れてみるとまだ淋しい限りです。珍らしく書き寄せて頂きましたが、写真、マンガ等例年より沢山送って下さいます。印刷関係が締め切り期日が相当早くなっています。間に合わないものは次回廻しになります。悪しからず御了承下さい。

苦情や注文などどうぞ

会員から浮き上った同窓会などおよそ無意味です。出来る限り広く会員諸賢の御意見をとり入れ、生きた同窓会 甲陽便りにしていきたいものです。同窓会の組織運営事業内容、また甲陽便りの編集その他、不満や苦情など遠慮なくお送り下さい。便りにも記載し、又可能なならば是正、実現に努力したいと思います。

◆遂に第二次大戦始まる

ある甲陽生の戦中日誌(S14年)承前
○8月28日 今朝平沼内閣は総辞職、午後九時組閣の大命同部大將に降下。ノムハン中心に滿蒙國境でのソ聯の侵入が激化している。
○8月30日 同部内閣成立、今日親任式が行われた。首相外相兼任、内務厚生小原、大藏企画青木、陸相畑、海相吉田ほか。又聯合艦隊司令長官は山本五十六中將に決定。国民党六全大会で王兆銘氏主席に推される。ソ聯西部國境に赤軍増派、ポーランドは午後一時半総動員令を発し、又外蒙國境にソ機四十台来襲二十三機撃墜など、東西の風雲は急だ。
○9月1日 長いといっても八月十日から二十日間の夏休みが終り今日から二学期だ。靴は持たず八時前登校す。今月から毎月一日は與亞奉公日だ。講堂での式後福徳神社に参拝。昨三十一日ドイツが手交した最後通牒を波國が拒絶、独は遂に武力行使に出、空軍を以て波全土を爆撃、陸軍も三方より侵入を開始。之に対し英仏は独への最後通牒を發す。愈々第二次歐洲大戦が、ホロンバイル高原上空の空中戦でソ機多数撃墜。
○9月4日 七時市役所前に集合。自転車でのまま上山君と登校。一時限歴史的時間は歐洲の情勢の話。昼迄四時間で戻る。村田君らと今津小学校の裏手を通って帰宅。火事あり。煙の上るのがよく見えた。僕の見た所用海校迎と思へたが、後で聞くと教島劇場の裏で三軒全焼、損害約五千円とのこと。
英仏相ついで対独宣戦。ヒ絶統東部戦線へ出馬。英の戦時内閣成立。首相チェンバレン外相ハリハックス、海相チヤナルほか。わが帝國は歐洲動乱不介入を声明。
○9月7日 昨夜僕の部屋に迷ひ込んだかうもりを捕へて取取り網の中に入れておいたのだが朝みると影も形もない。きっと必死の努力で逃げ出したのだらう。併しといくら小さいとは云へ、あの網の目をくぐるとはとうとうも考へられなかった。鹿品回収日なので雑誌と金類を少々持って登校す……。
6日早朝陸軍ワルソール郊外に殺到し猛砲撃を開始。英東海岸上空で初の独英空中戦が行はれたとの報あり。
○9月18日 一週間の病欠後久方振りに登校。歴史は小池先生が代りに来られたので自治会

「十陽会便り」

ト一ヨウ

終戦の翌春、或る日、思い掛けずも路上でパツタリ会い、お互の生存を慶び合うと共に同級生の誰彼に付いて知る限りの近況を一話合した事から、現十陽会前田会長の「二十諸人集まるやないか」となったのが始まりで、当初は五・六名の細やかな寄合いに過ぎなかつたが、何回か会合を重ね、参加者も増えて来たので、何か然る可き会合名を付けて恰好をつけようとする事になり、十四回卒業生の十四の四を甲陽の陽に擬して十陽会と名付け、今日迄、廿余年間、恩師田中佐太郎先生を囲み、楽しい会合を随時随所に揃って参りました。

去る十月十六日、大阪市内、梅ヶ枝町「芝苑」に於て、昭和四十八年度十陽会を開催し、田中佐太郎先生以下左記十七名が出席致しました。

伊東健治 今川四郎 安藤博也 香川 登
佐久間一夫 須田博二 田近英三 辻圭吉
前田通夫 松田光雄 森 健 山路忠信
新家正俊 山下秀生 森田与三郎 浜辺 悟
久し振りの事とて、各人夫々公私両面に至る近況を自己紹介する事から始まり、子供に好き配偶者の幹旋を依頼し合う迄はよかつたが、月給取としては、年令的に停年を境にして居る丈に、稍々湿っぽい話題が出たのも当然とは云え、間髪を入れず、田中先生より、「俺は今年七十才になったが、此の様に元気で、毎日働いて居る。人間、死ぬ迄夢を持たんような奴はアカン」と大喝され、今更の如く先生の元気を御姿に、目を見張ると共に、

昭和十年卒業生(第十四回)
十陽会
昭和四十八年十月十六日
於大阪梅ヶ枝町「芝苑」

先生 田中佐太郎
伊東健治
今川四郎
安藤博也
香川登
佐久間一夫
須田博二
田近英三
辻圭吉
前田通夫
松田光雄
森 健
山路忠信
新家正俊
山下秀生
森田与三郎
浜辺 悟

お互それなりに大人になつて居る積り乍ら、丸で子供扱いに遠慮会釈も無くスバリ直言叱正されて何の抵抗も感じない良き師を持ち続けているお互の幸せを感じ合つた次第です。今年も松田幹事のお骨折りで、傑作な案内し海に楽しめたい会合でしたが、席上、こんなにも楽しい、且つ色々な面で有意義な会合に、一人でも多くの同期生の参加を呼びかけようとする事になり、甲陽だより紙面を拝借しようとする事になり、本稿を認めました次第で、本稿で初めて此の会の存在を知られた十四回生の方々は、次回より是非参加頂き、本会をより盛大なものに致し度く、次回より案内を差し上げますから左記へ御連絡下さい。

甲 十陽会 便り

○還歴を寿ぐ甲十会

第十回(昭和六年卒)卒業生の集いたる甲十会は、去る十一月月中旬、みなと神戸(タワーサイドホテル)で、還歴祝を兼ねて第三十五回の附会を盛大に催しました。

折柄の秋日和の昼下り、扇持戸を眼下に眺めて、「うどんすきやき」を賞味し、恩師朝田先生を迎えての総勢約三十名は、童心に戻つての和やかな会食に旧交を一層温めつつ、おきまりの懐旧談に花を咲かせ、時間の経過も忘れず盛會裡に終始しました。

憶えは出席者の殆どは大正二年生れの面々であるために、何れも当年還歴祝に相当しているもので、誰彼なしに共感を新たにしつつ、一段と健康に留意して更に各自社会への貢献を誓い合ったものです。

それにしても甲十会は今度の会合で三十五回の多きを数えており、第一回目の会合は確か戦後間もない頃と仄聞していることからは考えて、洵に連続と続いている同窓卒業生会かと存せられ、おそらく母校の中に於ても、正に精華ものと自負している声も当日も出ていました。

今后当会の会員は、新規発掘以外先ず増加は考えられず、残念乍ら年と共に減少の一途を辿らざるを得ぬわけですが、会員一同更に

結果し助け合つて、母校の発展また社会向上の為それぞれ頑張り抜くことでした。(十一月十日記 当番幹事 記)

第二十一回K組クラス会

一昨年夏の同窓会に出席した八名は卒業三十周年のクラス会開催を衆議一決、溝口・渡辺両君が世話役で、十一月二十一日(火)夕刻、大阪駅前「北京」でクラス会(橋会と命名)を開催しました。金沢から藤田福夫先生を迎え、空路東京・高松からの参加者もあつて会する者二十五名、中には卒業以来初めての者もあり、一瞬とまどい気味であつてもそれぞれ昔の面影を宿し、やがては姓を呼ぶよりもあだ名が幅を利かせて和気あいあい。席上藤田先生の近著「野あざみ」一甲陽学報からの転載二篇ありをわけていただき、校歌の合唱で散会した。

(出席者)

浅井健次郎・井川登・井本幸雄・出石宗三・一色皓一・入間田謙信・大月尋男・岡内光雄・奥野義一・倉石秀夫・坂田稔・高畑吾郎・筒井潤・中北伸吾・鳴岩芳郎・浜口博章・林信男・樋口達彦・福井庄次郎・福岡慎吾・船越和幸・溝口泰三・遊佐英一・渡辺三郎

(出席者)

前回は久闊を叙するのみで載れなかつた、青野が原の兵舎では泊つたが、修学旅行の余しみを知らぬ我々は、有馬での一泊を計画した。五月十二日(土)午後四時に集合。今春名古屋の福山女学園文学部へ移られた藤田先生を囲み、顔ぶれは多少変わったが見知らぬ顔一つもなく、場所がらとて全員浴衣がけに打くつろぎ、きれいだころといはれ、お年は推して知るべしといはれ、五人、六人、三味をまじえて賑やかに。福井からの参加者は勿論のこと、有馬とはつい目と鼻の居住者まで、一つの部屋に三人・四人、明け方までのお喋りかきい。

(出席者)

浅井・井本・出石・入間田・大月・織山寛・倉石・坂田・高畑・鳴岩・西島(近藤)謙二郎・浜口・樋口・福岡・宮津雅雄・溝口・遊佐・吉田誠一・渡辺の十九名。(以上 浜口記)

替い位の日差しの為道は大分乾いていた。帰りは久米寺駅より乗車。大鉄百貨店着は予定通り午後五時……。

ヒ総統は一日ワルンヤワ入りし、六日国会演説で、根本問題討議に国際会議が召集されるべきこと、独は無限の野心を持たず和平を願つて居ること、英仏が反省せねば断乎戦ふことを力説、又東部戦線での独軍死傷は四万八千、不明三千四百と説明。之に対して英仏は、侵略から解放できぬ和平案は受諾せず、と強硬に応酬。

○10月9日 朝より微雨、六時に家を出る。七時過ぎ武芸して校庭に集合。実包射撃だ。出発は八時、阪神で元町、徒歩漢川神社に詣る。捧銃の礼をし、持有電車で箕谷へ。八丁ばかりで射撃場につく。一学期終り頃来た時は十六点だった。

到着と同時に各部処につく。僕らは暇なのですぐ昼食。零時半ごろから僕ら第二分隊の射撃が始まった。僕は二十八番目。片目を閉ぢ引金を引く。試発は零点だ。続いて五発打込む。立上つて標的を見やると、白旗が左右に振られて十点、次八点、四点、零点、計二十二点、ますますだつた。

終了は四時、持有持戸着五時、首の元町を行進して阪神電車、真暗な校庭に着いたのは六時過ぎであった。

◇遠足と運動会

○10月14日 平常よりやや早く起床。天気は上乘、甲陽の遠足としては珍らしい。……小さな六地蔵の停留所前に整列し終つたのが九時半、一丁許り東南へ、それから殆ど真直に東へ向ふ。前方も左右も京都特有の低い山々に囲まれ阪神間とは変わった気分がする。路の両側の田圃、もう頭を垂れた早稲や、つんと済まし顔の晩手が対象をなしている……。

その池に向つて東に弁天堂、次に不動堂、正面は小瀑布、左前方に阿閉梨寮があり、その配置もさりながら、青々とした灌木にとり囲まれそれが池面に映えた美しさは形容し難い。ぐるりと池を一周はりした……。

三寶院を出て大そう楽。約一里、六地蔵着は二時半だった。……。関門海峡大橋。海底鉄道の複線化等閣議決定。費用第一期一億五千万円。○10月28日……四時限は教練の代りに敵

甲陽会だより (第一回)

十四年に西松氏が勤務を浜松にもたれたのを機会に東西合同の懇親会をとの議が起り、より、伊豆、犬山に会を重ね、今回は宮崎氏の肝入りで岡山、小豆島、に会合することになった。

新幹線の岡山までの延長で東京よりも余りに苦痛なく旅行出来るがこの年の事を思いついたらとも云えるのである。

十九名の参加返事があつたのが種々の事情で六名も不参加となつたのは淋しい思いがした未だ第一線で陣頭指揮をせられていて人々が多いので仕方ないことではある。岡山駅で先行の伊東氏を除き、岡山市近郊の前川氏と十三名で後楽公園に行く、駅で卒業以来の田川氏と合つたときは集合場所でもうと、あれ違つても若過ぎると迷つたあげく、宮崎氏の甲陽会集合場所のピラを踏るなどの一幕もあつた。

愉快に語りつ、公園内でぶらぶらと散歩記念撮影して岡山港より土庄港へ快速艇にて小豆島に渡る。前川氏には次回を約してお別れする。

小豆島国際ホテルは宮崎氏の別荘の間柄であるので鄭重なもてなしに参加者も満足感に浸る。汗を流して会食に移る。例によつて辰馬氏寄贈の白鹿で乾杯。野辺議長長の進行にて和氣調々。過去何回かの案内状の無返事者に対する当事者の不満、次会懇親会には夫人同伴の件、同窓会に対する一回卒業生としての協力等協議す。

余興的に宮崎氏の歌謡曲、吉田氏の浄瑠璃、ありたるも、ついで昔の甲陽時代の話題に花が咲いて宿のご迷惑な時間と引き、夫々の室に引き上げた。

翌日は伊東、合田、吉田三氏は坂手港より水中翼船で神戸へ帰ることで別れ残り十名はホテル



ルの常務のご案内で宿のマイクロボスにて島巡りをする。鏡子溪まで至り宿にて昼食をとらなつて帰途に付た。

今回の懇親会にてもお互いが古稀である、もうあと何回かとの心細い発言も出るようになった。只思うに近況の返事もない同窓がどうしているのかとの噂。これは度々出ることはあるが、なんとかして次回の案内よりは無事か無事でないか位の返事は欲しいものだと思ふ。

会合する毎に愉快を思い出は語りつくすことは出来ないながら楽しい一つの思い出が甦えた気がする。(合田生)

○甲陽会だより (第一回卒)

一泊の懇親会が続いたので今回は東京特在住の人々に一人でも多く集まつて貰いたいと思つて、十一月十日宝塚ホテルに会場を持つ小川先生が校長になられたのでご紹介をとお忙いところをご出席して戴いた。

世話人より、通信の返事に各自の反省を促がすような案内をした結果今回は七十五名中五十九名の返事があつたことを報告し、欠席の方々の近況通信を回覧し友の状態を語りつつ、追憶に耽ける。只欠席者の内四割程が病気のためとあつて、健康な自分等の幸せ思ふたが、やはり年だからと思はれた。

同窓会の協力を呼びかけると共に、伊賀校長先生の自分らへの遺訓である、スロー、パット、シユアー、を校訓にと校長にお願いもした。家族同伴の懇親会開催には尚暫らく日時を要するらしい。

集まれば楽しい会合ではあるが、甲陽時代の勝手我々が花を咲かすので、世話人も交代にやつて貰いたいと思ふもする。遠く東京より馳せ参じて呉れた、土居君や、名古屋の吉田君のことを思えば容易なことだと思ふのだが、多人数が寄つて呉れたことは嬉けない限り、もなかなかである。それにひきかえ返事も越さない十六名があることは惜けない限り、今一度反省を促がしたい一念である。甲陽も古くなくとも、自分等は卒業してから五十年を越したのである。会を重ねることも数え切れない。人生の生き残りも、殊に大東亜戦争に従事したのもある、古稀を過ぎるものばかりと思うが、懐かしさを思い出せるのはやはり甲陽ボーイ時代の枝川であろう。

集まり語る幸せは続けたいものだ。(合田孝治 記)

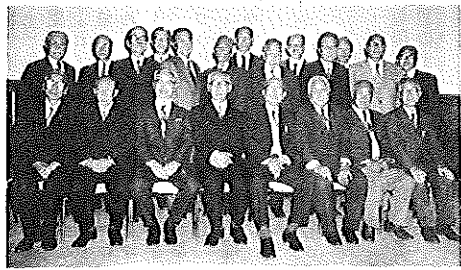
なお、当日の写真、個々の氏名は略しますが前別中央辰馬氏の左が小川校長、その左が中島久先生です。

林前校長の御経過

前号で御退任早々奇禍に遭われたことをお知らせしたので、若い同窓生諸君には御心配されたことと思はれるが、幸いこと傍の済生会病院で応急の処置をされたこと、その後の病院の適切な治療、それに何よりも先生の鍛え抜かれた強靱な体力と強固な意志が効を奏したのか、八月末めでたく退院され、その後御経過も順調で殆ど御全快に近いことを御報告し同窓各位と共に慶び申上げたい。

昨年十一月、所用の序でというので、杖一本で高等学校を訪れたが、御血色もよく、一と頃より肥られたよう、室内は勿論杖も要らず誠に御健康そのものであつた。御入院中各位から寄せられた御好意に衷心より宣しくとの御伝言があつた。新しい年を迎え早く完全に御健康に復され、旧に倍する御活躍のほどを祈るや切である。なお先生の御自宅は千六五三 神戸市長田区五位池町三丁目二一、二、お便りどうぞ。

なお、やはり昨年四月以降御病気で御静養中の体育科の中井先生も、その後の御経過は順調で、去る九月西宮中央病院を退院せられ、暫く垂水のリハビリテーションセンターに居られたが、年末自宅に帰られ目下御静養中である。面会のご様子などお元気な時と変わりなく、運動には多少まだ障りがあるようだが、若いお子達や奥さんの為にも、早く御全快にえられるようお祈りしたい。



先生の公民、第五限はインドの英作暗誦、チヨク箱の蓋に代つて今日は拳骨だ。殆ど皆が殴られた。今日は四十分授業で一時半ごろ終り、二時前講堂に集合、甲陽出身者の今次事変戦没者十四名の慰霊祭行はる。神主さんに見覚えがあると思つたら福応神社の神主さんだった。校長、同窓会総代、生徒総代の追悼文朗読あり三時過ぎ終る。あと食堂でぜんざいを貰つたが少ししか入つてなかつた。

昨日は武漢完全陥落一周年。スコットランド沖で英機空戦。

○11月3日 今日明治の佳節、運動会、晴れ。BKHの三組は七時迄に学校集合、椅子を出し準備。僕と松岡はラヂオ係。七時半講堂で挙式、約三十分、式後すぐ運動場に集合八時半開始。見物人は未だ少く、吐く息が白くうすら寒かつた。四番目の棒取りに出場したがズボンが泥々になつた。梅組は昼頃まで二位だったが、午後から腹色が悪くなつた。競歩にも出たが之は審判が不正確で途中走る者もあり不公平だ。各部リレーには書道部が出たが、先頭の大野頭強張つて二番になつたものの笠置がどん尻、次の僕も大分追付いた所で転んで木阿弥、最後の川口力走したが及ばずラストに終つた。最終成績はOKRTTBの順。後片付け夕闇の中を帰つた。

○11月11日 教練は各回教練で担え銃立て銃捧げ銃など。放課後映画あり。朝日ニュースはこの正月見たもの。我らの教官、と云ふのは割に良かった。

米石当り五円値上げ。一升四十七銭五厘。去る八日ミュンヘン記念式場で爆破事件あり死傷六十余名と発表されていたが、ヒ総統、ハス氏共無事が判明した。なほ、今日樫原神宮新本殿の遷座祭が行はれた。

◇同級生の電車轢死事件

○11月28日 朝食の時母が「西梅の小川周平さんが電車に轢かれて惨死、と出てくるよ」と云つたので驚いて新聞を開き、と出てくる。昨日午後四時過ぎ、甲子園駅の浜甲子園線を西から東へ横断途中やられたらしい。急いで登校。もう十人位来てあてその話をしてゐた。上住の話では、電車に気が付いて危いと止めた時はもう制られたのだぞうだ。大野師は本線のプラットフォームに居てすぐ下りて見ると、車の下から足が見えてゐたとのことである。何にしてもらあの愉快な小川が死んだとは夢のやうで信じられない。

甲陽新制一期会(仮称、三十四回卒)

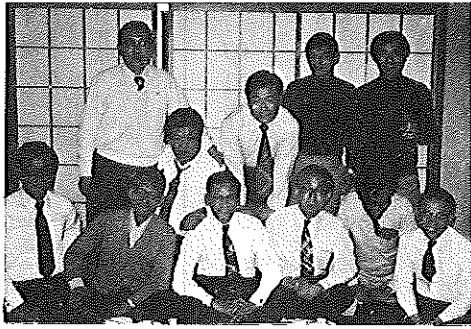
前略、甲陽便り毎回楽しく読ませていただいております。戦前から戦后にかけての数多くの先輩後輩に職場でよく逢いますが、大学時代の友人達より親しみを感ずります。大時代も甲陽会を作って盛んに酒盛りなどをやりましたが、社会人になってしまおうと中学時代の同窓が一番なつかしく、よく逢う機会にめぐまれております。

今度新校長になられた小河先生とたまたま宝塚で逢うことが出来ましたので、ここに同窓会便りを送りますのでよろしくお取計下さい。

×××××

終戦後間もないころ、六、三、三割の第一期生として新しく出来た甲陽学院中学校に入學したのが私達でした。当時は白いカバンとベン印の校章、海中と比較して特異な存在であったように記憶しています。遊び盛りの小学校時代から、がり勉時代へ突入したのも私達でした。こんな時代も過去二十五年前の出来ごとで、我々ももう不惑の年へと入りつつあります。さすがに頭髪はみな未だ黒々としておりますが、あと十年もたつとみな口マンスグレーになっているかもれません。

我々は卒業以来ずっと関西が関東で同期会を開いていますが、今年宝塚で開いた会は特に印象深いものでしたので御紹介します。芥川先生(後に校長は、高令のため来られなかったが)元氣なお声を皆で聞き、先生も教える子の元氣な声に涙を流さんばかりに喜んで下さった。何回となく開かれた同期会で、写真が一枚もなく残念だったのですが、今回は力



メラを持参し一枚撮ったので紹介します。先生は小河新校長と今度校長になられた宮川先生それに伊藤先生の御三人で、あとはやや肥り気味の同期生連中です。写真をみて皆少し驚きです。髪は黒々としていて、恐らく適当に若さを保つ秘訣をもっているようです。ではこれ位で、乱筆多謝。(三十四回卒勝部英夫) 写真は前列向かって右から、岡崎(社長)、高木(酒屋)、小河先生、宮川先生、伊藤先生、伊藤(真珠屋)、後列同じく右から、大沢(出版業)、相中(協栄KK)、奈良(十合百貨店)、内海(大九百貨店)、勝部(大阪商船三井船)以上

ご挨拶

この度母校サッカークラブ部の会長を引受ける事になり、一言御挨拶申し上げます。戦前スポーツに強い母校の性格が、戦後進学校としてのゆるぎない地位に発展されましたのをみるにつけ、学院関係者の御努力に対し心より敬意を表する次第です。

本年久し振りに進校との定期戦を観戦し、又九月に山城高との招待サッカークラブ部を親で勉強だけの甲陽生でなく、まじめで活発な後輩諸君の姿に接し誠に心強いものを感じました。今や母校が文武両道に通ずる学院として益々発展あらんことを期待するものですが、幸い小生の創設したサッカークラブに中村君(35回)という指導者を得、部員数も中学校併せて四十数名に及んでおり、多少とも文武の武の一端に協力することが出来たらという気持ちで会長を引受けた次第です。若手OBによる甲陽クラブも西宮市社会人サッカークラブ部で優勝したというのを聞いております。今一度母校の名が全国大会の中に入る日を祈ってあいさついたします。

森田定雄(第二回)

サッカー部OB総会

去る九月二十三日母校恒例の行事「音楽と展覧の会」が、絶好の秋晴れに恵まれる中、盛大に催されました。当日は特別企画として「招待サッカー」と銘をつけて、京都山城高チームを招き、本校サッカークラブ部が対戦いたしました。父兄・OBの多数の声援を受け、本校の健闘が期待されましたが、前半一対〇、後半五対〇とさすがに前評判通り近畿NO.1の後方に屈しました。尚試合終了後、OB現役で記念撮影のち、近くのレストラン43

にてサッカークラブOB総会をもちました。総会では次の事が満場一致で決定し、次回は来年の六月海校定期戦当日にもつことになりました。

記

会長 森田定雄氏(二回卒)
副会長 西邑昌一氏(九回卒)

大阪ガス本社(営業部)
大塚和祥氏(二十四回卒)

甲陽クラブ代表 下村宏氏(三十七回卒)
司法書士

甲陽サッカークラブOBクラブ

西宮社会人リーグ(二部)で優勝

本年のサッカークラブ初戦で、堀野寛氏(45回卒)を中心に若手OBによる甲陽クラブで西宮社会人リーグに参加する事になり、OB総動員で五月より一〇試合を消化して参りまが、去る十一月二日の対ウエザーキング戦に七〇で決勝し、リーグ初優勝が決定しました。年が明けて早々一部下位チームとの入替え戦が残っていますが、来年度は一部リーグで優勝し、現役と共にサッカークラブの名をどうにかせようと一同張り切っております。

(35回 中村光成記)

二十一回 桃組だより

拝啓 甲陽学院益々御発展大慶に存じ居ります。扱て先般第21回卒桃組東京在住同窓会を三十二年振りに催しました。同封名簿通り住所が判明いたしましたのでお知らせいたします。甚だ御手数とは存じますが同窓会名簿御訂正願ひ度く御依頼申し上げます。

貴会の益々御発展を祈念いたします。敬具
川崎市高津区新鷺沼一五三八
安西信夫

二十二回 K組だより

拝啓 師走の候諸先生方愈々御清祥のことと存じます。この度第22回(S18年)卒K組の名簿を整理作成しましたのでお送り致します。中には準卒及び第23回卒も混っているかも知れませんが、おついでの折に御照合下さい。

去る十一月二十七日K組卒の橋友会初めてのゴルフ会を行いました。場所は道盛氏のホームコース茨木国際で、ゴルフ歴二十年、シングル腕の腕をはる本荘氏以下道盛、持永中野、斎藤、横地、赤塚、酒井と八名集合、

昼食後自治委員四名小川宅へ行く。奥の間にろうそく花輪など飾られて屍体が置かれてあった。布ですっかり被はれ、まるで寝てあるやうで、今にも動き出しさうに思はれた。

○12月2日 第一回の練習は小隊密集教練の子だつたが担え鉄の練習、昼からは校内大会、四梅は柔、剣道とも三梅に負けた。

藤田先生の宅へ行くことになっていたので甲子園駅で大野節を待ち一箱に行く。約十分後〇組の戸井、長原君も来、署名してから約一時間半許り現代文の講義を聞く。そのあとシュークリーム、お茶を頂き、写真帖など見せて頂いた。帰宅は十一時前。

先月末芬蘭へ侵入したソ聯軍は早くも国境より数十哩進出。芬蘭に赤色人民政府が成立し、ソ聯が承認した由。

◆独艦シュペー号の自爆

○12月13日 愈々今日は査問だ。八時十分前登校。すぐゲートルをつけて集合、九時頃査問官到着、すぐ問兵あり。それから分列式。四年が一番うまく出来た。僕らの小隊密集教練は十一時前、終って第四限代数の授業、午後校庭に集合し一時から査問官の講評。訓話約三十分、概ね良好であった。

南米ウルフグアイ沖にて独艦シュペー号と英巡洋艦三隻との間に海戦、双方とも傷つきシュペー号はモンテビデオ港に避難す。

○12月17日 昭和十四年あとも半月、日曜だが朝六時起床、自転車車で甲子園プール前に集まる。七時過ぎプール横の食堂で朝食。味噌汁、生卵、海苔、漬物二切といふ献立。約二十名ばかり、食後それぞれ部処につく。早朝鍛錬会強歩大会の審判だ。僕、増田、大野一級部の四人は甲子園線をし南下、先頃二千米走った大通りだ。赤旗に赤腕章、コース通過のカードを手につくこと約一時間、八時半先頭走者がやってくる。それから小一時間、皆通過して元の食堂で紅茶を頂き十時帰宅。午前中は部屋掃除、午後はノートで英語調べ、一時半から虎造、金語楼らの清水港、映画天保江戸。夜は七時半から古今亭しん生、柳家小さんらの寄席中継を聞いた。

ウルフグアイ政府から午後八時期限に退去を通告されていた独艦シュペー号は、七時半に出航、すぐ自爆沈没。なほ同艦が撃沈した英艦は九隻に上る云ふ。

○12月29日 愈々暮も迫って来た。学校も明日で終了だ。数学の時間答案を返して貰ふ。昼食前、講堂で二千六百年頌歌の練習をした。午後は同窓会の宛名書きを手伝ふ。

在校中やんちゃで散々先生を手こずらせた連中が、小さいボールにふり廻されて一日を愉快に過ごしました。第二回を来春に開催することを約し散会した次第です。

厳寒の折柄、何卒御自愛下さるよう祈念致します。簡略乍ら近況お知らせまで。 敬具

西宮市松山町一七二八二一六〇一
酒井新介

随想 甲陽昔と今

文武両道に通じること」
昔の言葉に「文武両道に通ず」という言葉がある。大将たる者、英雄たる者、宰相たる者、即ち人に長たらんとする者は文武両道に通ぜねばその器でないという意味である。俗的に訳せば、机にかじりついて学問ばかりして、青白い顔をして虚弱なのはだめであり、又運動ばかりして勉強せず頭がお留守になっ

ているのもだめで、両方の道に通じていることが一番良いという意味である。

甲陽学院は、私等甲陽中学の時分は運動の盛んな学校で名声を馳せていたが、敗戦後は勉強の盛んな学校として有名にはり、大学進学率は全国で一、二位を争う学校に变身して現在に至っている。世の中の事象はその極に達すれば反対の極に移行して行くものらしいが、さすれば中庸の道が一番良い方法のようにも思えるが、それは昔流の考え方のなかにも見えない。

甲陽中学が戦前運動に熱を帯びてその方面で全国に名声を馳せたのも、現在の甲陽学院が学問の優秀校として全国に存在を知られているのも、それぞれその時代に適切な行動をとったからで、二兎を追う中途半端な行動をまで維持させてきた理由ではないだろうか。その意味からいうと文武両道の二極を同時に極めることは誠に至難のわざで、両者は理想としての言葉にすぎないのだろうか。

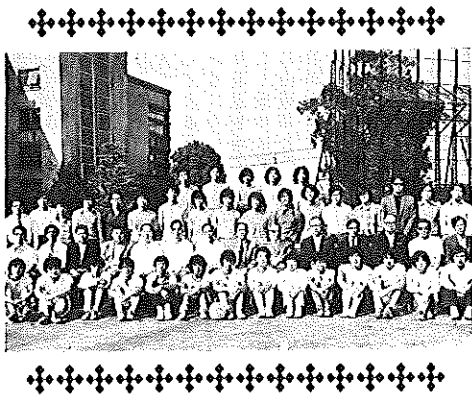
「古き良き甲陽中学運動部」

私が甲陽中学に入学したのは大正十四年である。当時の甲陽中学は、武庫川の支流枝川の一、緑の土境一杯に杉が生い茂り、その根元には笹や芒が密集し、勿論甲子園球場もない現在では想像もできない位の恵まれた環境の中にあった。

集まる若人は、明るく朗らかで屈託のない者ばかり、運動部に限らず多くの生徒が、思う

存分伸び伸びと跳ね廻っていたもので、まとも勉強する者はほんの僅か、官立高等学校に行ける者など数える程しかなく、勉強する者は持戸一中へ行くや相場が決つてたのだが、それでも先生達は勉強せよ、勉強せよとやかましく言っておられたのを思い出す。その先生方、長生きしておられたらうか。

勉強が好きでないということになると、陽気な連中ばかりだし、若さに馬力をかけて運動部に入る者が多かったように思う。だから各運動部は共に強く、サッカーだけでなく、野球、庭球、陸上、柔道、剣道等、各部とも大なり小なり覇者として君臨し、大正末期から昭和初期にかけての甲陽のスポーツは黄金時代ではなかったらうか。



その後私は昭和十一年のベルリン、オリンピック大会にサッカーの日本代表選手に選抜せられ、帰国後新築間のない母校甲陽中学の

講堂で講演をしたことがあります。もう一人オリンピックの選手がおられ、当時私と二人だけでしたが其後オリンピック選手が何人位誕生した事でしょう。

「蹴球部の思い出」

甲陽中学蹴球部の誕生は、大正四、五年頃ではなからうか。私は大正十四年入学すると共に入部し、二年生の時正選手にして貰ったように思う。小学校からボールを蹴っていた

ので、そのお蔭かもしれない。

思い出としては、現在と同じグラウンドでの夏の炎天下の猛練習の苦しかったこと、苦しかったこと。併し又練習が済んで、グラウンドで練習を見守っていたくれた先輩達の、オゴリのパケツに入れた甘い、甘い氷水の味が、今でも忘れられない。この甘い一杯の氷水が練習の苦さを吹き飛ばしてくれたと共に、サッカー部の方を蓄積していったのだと思う。

当時は各地の師範学校が中学校のサッカー大会を主催していて、関西地方では、岐阜、京都、御影、姫路各師範学校の大会に参加したことを記憶している。いずれも優勝或は良い成績を残し、四、五年生の時には、当時全日本の覇者であった関西学院高商部に胸を借りて何度も練習試合を行う機会に恵まれ、再三接戦を繰り返し、漸く一勝を得たことを覚えていた。その年の関西学院主催の全国中等学校蹴球大会には見事優勝して全国に名声を馳せたのであるが、思えばこの頃が甲陽サッカー部史上の最盛期だったと思う。

さて最近の甲陽学院サッカー部の状況であるが、部員数も漸増して向上期にあるように思うとの中村先生のお話で誠に心強く思っている次第。過日京都山城高校との招待試合を見る機会を得たが、勝敗は別にして元氣一杯プレーしていたのが印象的だった。時移り、人変り、学院も、そして中に学ぶ諸君の目的も私共の時代と同目には論ぜられないが、同じく甲陽に学び、サッカーに青春をかけた者として、後輩諸君の一層の研究、活躍を祈ると共に、出来る限りお力になりたいと思つて

野球部だより

夏の県大会予選は期待に反して一回戦で敗退した。

甲陽	000	0000	0000
県東	000	0000	0001
レギュラー			X0

しかし新チームは六人が昨年のレギュラーであり、残りの三人も二年生で、監督には中学から引き続いて田村先生になって頂いているので、チームワークは非常によく、人数も二十人と例年になく多く、昨年以上に期待されている。だが、新人戦は運悪く二回戦で報徳学園とあたり、県大会に出場できなかった。

甲陽	000	0000	0001
報徳	002	022	0006

今年こそは普実に一戦一戦を戦って、諸先輩の御期待に副いたいと思つている。

水泳部だより

寡勢しかもプールが香戸園の中学にしかないという悪条件の中で、われわれ水泳部員は頑張っています。最近の成績は次の通り。

- (一) 四校対抗、六年連続優勝
 - 百 自 2位 大林
 - 四百 自 2位 大林、3位 岩田
 - 百 平 1位 藤本、3位 岡
 - 二百 平 1位 藤本、2位 岡
 - 百、バタ 1位 松永、3位 安台
 - 百、背 3位 安台
 - 百、背 3位 安台
 - リレー 1位 安台、大林、松永、岩田
 - メドレー 1位 岩田、藤本、安台、大林
- (二) 県ジュニア大会
 - 四百個人メドレー 2位 岩田
- (三) 西宮市内大会
 - 総合 第三位
 - 個人六位入賞者
 - 百、自 3位 山内、5位 栗野
 - 百、平 4位 岡、6位 中村
 - 二百、背、3位 藤本、5位 持富寺
 - 百、バタ、4位 安台
 - 四百リレー 3位 山内、安台、岩田、栗野
 - 四百メドレー 3位 山内、藤本、安台、岩田

計報

泉 秦治郎氏(第一回卒)泉合名会社代表社員十一月二十五日奈良の親戚に法事に参り脳溢血にて現地済生会病院に入院療養せられたが十二月十一日心臓衰弱にて逝去された。謹んで哀悼の意を表する。(合田)

編集後記

異常な程のインフレ暴進に、石油危機物不足が迫れた日本を、テンヤワンの中から暮れた日本を、それを反映したのが可成り早くから手を廻していた苦の原稿、締切り近くなっても中々集まらず、之が国会ならば野党の追及にも角福流の逃口上でごまかせるものを、融通の利かない発行予定日と印刷所の都合とあってはそれもならず、今回も亦誠に原稿未千万の内容に終始しましたことをお詫びします。台所のやり繰りを全く同じで原稿さえ多ければ編集は誠に楽、その意味からも積極的な御投稿をお願いしてきます。